

平成28年度 第2回西淀川区教育行政連絡会（小学校）議事要旨

日 時：平成28年10月25日（火）10:00～11:10

場 所：区長応接室

出席者：（小学校）柏里小学校長・野里小学校長・姫里小学校長・姫島小学校長・福小学校長・大和田小学校長・川北小学校・佃小学校長・香簀小学校長・歌島小学校長・出来島小学校長・佃西小学校長・御幣島小学校長
（区役所）塩屋区長・橋本副区長・高安教育支援課長・九之池教育支援課長代理・小林教育支援担当係長・若松係員

1 校長経営戦略支援予算（区担当教育次長執行枠）の中間報告について

（区役所）

○区役所からの報告

（1）ものづくりまつり

・児童生徒向け3Dプリンタ体験学習会として、8月21日（日）に、区役所工業担当が主催する「西淀川ものづくりまつり2016」において3Dプリンタ体験ブースを出展した。

①体験会2回実施

・当初は1回あたり15名を予定していたが、応募者多数のため、企業のご協力により1回あたり18名で実施した。

・簡単な講義：パワーポイントを使って3Dプリンタの紹介

世界では、自動車やビルまで作られている。

後ろで保護者の方々も見ていた。大変熱心に聞いておられた。

・一筆書き：ア) 一筆で描けるものを考えてもらってiPadに描く

イ) ソフトを使って、立体に変換

ウ) データをパソコンに送って、1個あたり10分程度で出力できるような厚さを設定

エ) 出力

②何ができるかなクイズ

・体験会では、時間の都合上、すごいものは作れないので、3Dプリンタの特徴であるどんどん上に積みあがっていく様子を見てもらえるようにクイズを実施した。

2時間程かけて作成し、できあがった造形物は正解者にプレゼントした。

思っている以上に反応はすごいもので、何ができるかとずっと見ている子どももいた。

正解者には、できあがった造形物以外にもプレゼントがあり、抽選会を行ったが、プレゼントは全て3Dプリンタで出力したもので、子どもたちだけでなく保護者の方も盛り上がっていた。

③サンプル展示、チラシの配布

子どもも大人もサンプルを熱心に見て、構造はどうなっているのかと質問が寄せられた。

特に可動式の造形物が、パーツ毎ではなく組立不用で一度にプリントできることには驚いていた。

④アンケート

アンケートの結果にもあるが、保護者の関心や思いが強く、たとえ子どもが嫌がっていても体験をさせたいとするケースもあった。(抽選で当たっても子どもが辞退するケースもあり、外れた人たちが再抽選で盛り上がる場面もあった。)

(2) 事業所見学会

- ・区内小中学校教員を対象とした3Dプリンタ事業所見学会を2回実施した。

①リコージャパン株式会社

- ・世界の教育現場での活用などを教えていただき、1時間10分が短く感じるくらい、興味深く聞いていた。
- ・見学及び質疑応答(見学時間が足りなくなるくらい質問が続出)
- ・アンケート結果
「普段企業の方と話すことがないので、人として知識や考え方の幅が広がった」といった意見も多数いただいた。

②武藤工業株式会社

- ・当日、学校の校務の都合でキャンセルが相次ぎ、少人数の参加ではあったが、逆に質問もしやすく、濃い時間を過ごしていただけたかと思われる。
- ・1回目ではできなかった、CADソフトの簡単な紹介もしてもらった。
- ・出力していくにあたって、形状によっては固まる前に垂れ下がってしまうので、補助材が必要になるが、水に溶けるものもあって、その映像には感嘆の声が上がった。

(3) 今後の展開

- ・3Dプリンタの購入について、学校で使うならどのような機種がいいか、どういったCADソフトを入れるべきかなど企業に協力いただきながら検討を行っている。
- ・購入後に研究会を立ち上げ、その中で機器の使い方やプログラミングから出力までの流れなど簡単な説明を実施したい。また、各校で使っていただくにあたり、本来は業者に使い方などを説明しに回ってもらえるといいのだが、それは難しいので、簡単なマニュアルの作成などを行い、学校に配付したいと考えている。
- ・希望学校への貸し出し(研究会メンバー優先)を行い、学校での活用にあたって問題点の抽出にご協力いただきたい。

○質問など

(小学校)

- ・3Dプリンタの希望校への貸し出しとあるが、材料費は区が持つのか学校が持つのか。
- ・他区の小学校(ICTモデル校)で3Dプリンタを使用した公開授業を実施したが、子どもたちの考える時間等もあり、授業時間の45分では足りなかったと聞いている。学校現場で使うとなるとせめて2時間以内で活用できるようにしないとい

けない。

- ・研究会はどのようなメンバーを考えているのか。

(区役所)

- ・次長枠の事業の範囲内で実施する予定であり、3Dプリンタ・パソコン・材料をセットで貸し出すことを予定している。貸し出しを行うので、移動に耐えるある程度頑丈な3Dプリンタと小学校でも使いやすいようなCADソフトの購入を検討している。
- ・本日のサンプルのような小さいものや、ものづくりまつりでの体験会のようなものであれば10～15分ぐらいで出力できる。授業で使用するには工夫が必要と思われるが、活用できる方法があるのではないかと考えている。
- ・研究会については、協力していただける企業と興味のある教職員に参加いただきたいと考えている。学校現場で使うためのマニュアルの作成などを予定している。管理職でも技術の先生でもよいので、興味のある方を募集したい。

2 平成29年度予算方針について

(区役所)

○区役所からの報告

(1) 課題解決に向けた学校取組支援事業

- ・学校訪問でのご意見を受けて検討した。
- ・当初、区としては学校への配分を予定していた。しかし、教育委員会事務局において「次長枠は区役所が主体となって取り組む事業のみで、学校への配分は認めない。」と決められ、予算要求直前の時期に区に示された。
- ・直前のことだったので、どのようなことができるかと検討したところ、費目や時期を指定するなどの工夫をして、各校の取組みを支援することにした。
- ・教育委員会事務局とのヒアリングでは、次長が自ら学校の声を聞いて積み上げて作った事業であることを説明し、一定の了解を得ている。
- ・区での直接執行という形でないと事業が認められないので、対象など限定的な取り扱いにせざるを得ないが、ご理解いただき、各学校工夫していただきたい。

(2) プログラミング教育推進事業

- ・文部科学省は、「2020年度から新しい教育課程を順次実施し、プログラミング教育について発達の段階に則した必修化を図る」としており、総務省についても、平成28年度から「若年層に対するプログラミング教育の普及推進事業」を開始している。
- ・「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」が大臣政務官決定にて設置され、山本晋次大阪市教育委員会教育長が委員として参加している。
- ・8月に「関西教育ICT展」が初めて関西で開催され、我々も参加し、また、教育委員会事務局からも多数参加したと聞いている。

- ・区として、平成28年度から教育現場での3Dプリンタの活用を検討している。引き続き、プログラミング教育に関する事業を展開していきたい。
- ・教育委員会事務局のヒアリングでは、「教育委員会事務局としても説明会やモデル校での実施を検討していかないといけないと思っている。ぜひ連携してほしい。」と言われた。
- ・予算については、議会で決まり次第、区として手続き部分などの詳細を検討していく。
- ・本日発売の雑誌にプログラミング関連の記事があったため紹介。

○質問など

(小学校)

(1) 課題解決に向けた学校取組支援事業について

- ・平成29年度の次長枠の予算規模はどれぐらいか。
- ・夏休み中に行う教職員向けの講演会の講師謝礼は出せない(児童生徒向けでない)ので助かる。
- ・市内出張旅費について、予算が削減されて窮屈である。出張機会も多く、西淀川区は市内中心から離れていることもあり、教育センターに行くにもお金がかかる。全国的な会議や先日の3Dプリンタ事業所見学会も旅費がかさむため行けなかった。また、教育委員会事務局の方では講師謝礼について、大学教授は出るが大学生には出せないと言われている。大学生は児童生徒にとって憧れる身近な先輩である。旅費や講師謝礼について区の予算でなんとかしていただけるとありがたい。
- ・「発達障がいサポーター」の費用に充てることはできないか。
- ・「特別支援サポーター」は、配分されている予算が少なく、昼から帰ってもらっている状況。せめて子どもたちが帰るまで拡大してほしい。「特別支援サポーター」と「発達障がいサポーター」を両方合わせても足りない。
- ・予算がないから人材はいても帰ってもらわないといけない学校もあれば、逆に人材がいない学校もある。
- ・「特別支援サポーター」の予算枠は使い切っている状態。教育委員会事務局に申請しても目一杯だと言われる。
- ・「発達障がいサポーター」の人材不足ということであれば、スクールカウンセラーの方になってもらってはどうか。

(2) プログラミング教育推進事業

- ・プログラミング教育について、西淀川区には大学がないが、大学との連携や大学生の協力等は得られないか。

(区役所)

(1) 課題解決に向けた学校取組支援事業について

- ・今のところ前年度並みで要求している。各学校への配付額は今年度より少ないかもしれないが、学校訪問での意見で「あと少しでも予算があれば取組ができる」という声が多かったので、次長枠の中で各学校の取組を支援する予算を計上した。

- ・教職員の旅費については、次長枠からは出せない。そもそも教育委員会事務局の制度上の問題であるように思う。
- ・別途実施している「発達障がいサポーター事業」に充てることはできない。ただし、平成29年度は区予算で実施する「発達障がいサポーター事業」の強化を検討している。
- ・区としても「特別支援サポーター」の決算状況を把握したいと考えているが、おそらく乖離があると思われる。区の「発達障がいサポーター事業」では、できる限りお使いいただけるように、再配置を何度も実施している。教育委員会事務局の「特別支援サポーター」についても、再配置するなどきめ細かく支援してもらうように要望している。
- ・スクールカウンセラーの方は単価の高い方なので、有償ボランティアである「発達障がいサポーター」になってもらうのは厳しいと思われる。

(2) プログラミング教育推進事業

- ・おっしゃるとおり区内には大学がなく、「ものづくりまつり」等では修成建設専門学校等との連携は行っているが、必要であれば大学等との連携についても、これから模索していく。

3 その他

(区役所)

- ・クーラー設置に伴い2学期開始が早まり、給食の開始時期についても早めることを要望する声が、学校訪問時複数の学校からあげられていた。
- ・教育委員会事務局に8月時点で前倒しの予定について確認したところ、「今のところ考えていないが要請があれば検討する」といった返答があり、要望をお伝えした。10月に入り再度確認したところ、「早める方向で動いている」という返事があった。

(小学校)

- ・小規模校であり、1クラス25人に満たない学年があるが、阪神電車の団体割引が25人以上からとなっている。社会科見学等に行く際に団体割引が適用されない。地下鉄は団体の人数規定はない。行政からなんとか要望してもらえないか。
- ・校外学習に行く際に、駅にあいさつに行くが、乗車する駅に打合せとあいさつと2回行くため担当者の負担になっている。なんとかならないか。

(各校)

- ・校外学習の打合せは、だいたい下見等の1回のみで、人数変更等は当日行っている。下見を兼ねた事前打合せ1回のみでよいのではないか。

(区役所)

- ・阪神電車の団体割引については確認する。